

高橋鑄造所、少量品狙う

鑄物部品 高周波炉に更新

【岐阜】高橋鑄造所（岐阜県各務原市、高橋宏明社長、058・382・2106）は鑄物部品の生産能力を3割引き上げた。溶解炉2基を能力が高く小型で小回りもきくタイプに更新した。鑄物業界は海外との競争にさらされ事業環境が厳しいが、同社は業界では珍しい試作も手がけることを生かしてインフラや建設機械など幅広い業種から受注を拡大している。供給能力を高め2018年3月期に売上高を16年3月期比1割増の11億円に伸ばす。

生産能力3割上げ

低周波誘導炉2基を、高周波炉に更新した。投資額は1億4000万円。新規導入した炉は1回当たりの最大投入量は1トと従来比3分の1だが、1時間当たりの処理能力は1・5トと同5割増。

同社が強みとする多品種少量品への対応力が、より高まる。

高橋鑄造所はダクタイル鑄鉄などの鑄物部品の量産を主力に試作も手がけ、中子が20個程度も入る複雑形状品など高難度の部品もこ

なす。系列取引が多い業界にあつてガス管などのインフラや建機、鉄道関連など取引先が年間約200社と幅広い。

鑄物業界では供給先の海外生産シフトや安い海外製品の調達増な

どによって厳しさが増しているが、同社は16年3月期に過去最高の売上高を記録。今後、20年東京五輪・パリオリンピック関連工事の本格化などで需要の伸びを見込んでおり、さらなる事業拡大を狙う。



導入した高周波誘導炉